

3.1.4 生物環境

(1) 植物

ア 植物相及び注目すべき種の状況

① 植物相

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）によれば、仙台市の植物相は、船形山山頂付近で見られるキンロバイ、ウスユキソウ、コケモモ等の高山～亜高山帯の植物から、沿岸部で見られるアカガシ、シロダモ等の暖地系の植物まで見られる。また、丘陵地帯は暖温帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域であり、しかもその領域が広い面積を占めることから、この領域でモミーイヌブナ林の発達がみられ、暖地系の植物、寒地系の植物が混在して見られるほか、山地帯以高（標高約 400m 以上）では、多雪の日本海側の地域に特徴的に見られる日本海側要素と呼ばれるチシマザサ、タニウツギ、ナガハシスミレ等の植物もみられる等、非常に多様な植物相を示している。

② 注目すべき植物種

調査範囲内における注目すべき植物種は、表 3.1-56 に示す基準に基づき選定を行った。その際、計画地が「市街地地域」に位置していることから、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）において「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、「市街地地域」（表 3.1-57）における減少種を「注目すべき植物種」として抽出した。

調査範囲内における注目すべき植物種を表 3.1-58 に示す。

③ ふるさと種（植物）

仙台市に生息・生育する植物種のうち、仙台のふるさとの自然を代表する種や、市民に親しんで欲しい種として「ふるさと種」が選定されている植物のふるさと種は表 3.1-59 に示すとおりである。

表3.1-56 注目すべき種の選定基準

判断基準		番号・記号	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種、あるいは生息地・生育地がごく限られている種	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種	
		4	1, 2, 3 には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
			A	現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種
			B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種
			C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種
			+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種
			/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい
	・	判断に資する情報がない		
	環境指標種		○	本市の各環境分類における環境を指標する種（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）
レッドデータ等	国 RL（環境省レッドリスト 2018（平成 30 年環境省）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧 I 類	
		CR	絶滅危惧 I A 類	
		EN	絶滅危惧 I B 類	
		VU	絶滅危惧 II 類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれのある 地域個体群	
	県 RL（「宮城県レッドリスト 2016」（平成 28 年宮城県）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧 I 類	
		VU	絶滅危惧 II 類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれがある地域個体群	
	要	要注目種（隔離分布種、分布北限・南限種、基準産地種、その他）		
	天然記念物、種保存法	特天	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）における特別天然記念物	
		天然	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）における天然記念物	
		国内	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号）における国内希少野生動植物種	
		国際	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号）における国際希少野生動植物種	

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

表3.1-57 減少種の地域区分

番号	地域区分	
(1)	山地地域	
(2)	西部丘陵地・田園地域	
(3)	市街地地域	
(4)	東部田園地域	
(5)	海浜地域（後背の樹林帯も含む）	

※：計画地は、「3 市街地地域」に該当する。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

表3.1-58 注目すべき植物種

番号	科名	和名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
			学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
				山地	田園 西部丘陵地・	市街地	東部田園	海浜				
1	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	1, 2	・	B	C	C	・	—	—	—	—
2	ヒメシダ	ヒメワラビ	2	・	B	B	B	・	—	—	—	—
3	クルミ	オニグルミ		・	B	B	B	・	○	—	—	—
4	ヤナギ	ネコヤナギ	4	・	C	C	・	・	○	—	—	—
5	ブナ	アカガシ	2	・	C	C	C	C	○	—	—	—
6		シラカシ	2	・	C	C	C	/	○	—	—	—
7		ウラジロガシ	2	・	C	C	C	/	—	—	—	—
8	ニレ	エノキ	4	・	B	B	B	・	—	—	—	—
9		ケヤキ	—	C	C	B	B	・	○	—	—	—
10	イラクサ	トキホコリ	1	・	B	B	・	・	—	VU	VU	—
11	タデ	ミゾソバ	—	・	C	B	C	・	○	—	—	—
12	スイレン	オニバス	1	EX	EX	EX	EX	EX	—	VU	EX	—
13	ツバキ	ヤブツバキ	—	・	B	B	B	B	○	—	—	—
14	アブラナ	ナズナ	—	・	B	B	B	・	○	—	—	—
15	ユキノシタ	ユキノシタ	—	・	B	B	・	・	—	—	—	—
16	マメ	タヌキマメ	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	—	CR+EN	—
17	ミズキ	アオキ	—	・	C	C	C	C	○	—	—	—
18	ツツジ	ヤマツツジ	—	・	C	C	・	C	○	—	—	—
19	ゴマノハグサ	イヌノフグリ	1	・	・	B	・	・	—	VU	VU	—
20	ゴマノハグサ	カワヂシャ	1	・	・	B	B	・	—	NT	NT	—
21	タヌキモ	フサタヌキモ	1	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	EX	—
22	キク	フジバカマ	—	・	C	C	・	・	—	NT	—	—
23		ノニガナ	—	・	・	C	・	・	—	—	NT	—
24		カワラニガナ	—	・	・	B	・	・	—	NT	VU	—
25		アオヤギバナ	—	・	・	B	・	・	—	—	VU	—
26		エゾタンポポ	—	・	C	B	B	C	○	—	—	—
27	ユリ	ヤマラッキョウ	—	・	・	B	・	・	—	—	VU	—
28		カタクリ	—	・	B	B	B	・	—	—	—	—
29		ニッコウキスゲ	—	・	B	B	B	・	—	—	—	—
30	キンバイザサ	コキンバイザサ	1, 2	EX	EX	EX	EX	EX	—	—	EX	—
31	アヤメ	ヒメシャガ	—	・	B	B	・	・	○	NT	NT	—
32	イネ	ヒナザサ	—	・	B	B	・	・	—	NT	VU	—
33		カゼクサ	—	・	B	C	C	・	○	—	—	—
34		ウキガヤ	—	・	・	C	C	・	—	—	NT	—
35		オギ	—	・	C	C	C	C	○	—	—	—
36		ヨシ	—	・	C	C	C	C	○	—	—	—
37		ツルヨシ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—
38		シバ	—	・	B	B	B	・	○	—	—	—
39		ガマ	ヒメガマ	—	・	C	C	C	・	—	—	—
40	ガマ		—	・	C	C	C	・	○	—	—	—
41	ラン	セッコク	1	EX	EX	EX	EX	EX	—	—	CR+EN	—
42		ヤマトキソウ	—	・	A	A	・	・	—	—	CR+EN	—

※：「—」は該当なしを意味する。

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（植物）総括表」（平成29年3月 仙台市）から、市街地において何らかの基準に該当する種のみを抽出した。

表 3.1-59 ふるさと種【植物】

No	科名	和名
1	メシダ	クサソテツ (コゴミ)
2	マツ	モミ
3	ブナ	ブナ
4		コナラ
5	ニレ	ケヤキ
6	モクレン	ホオノキ
7	キク	エゾタンポポ
8	ユリ	カタクリ
9	イネ	ススキ
10		ヨシ

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」 (平成 29 年 3 月 仙台市)

イ 植生及び保全上重要な植物の生育地の状況

① 植生

調査範囲の現存植生図は、図 3.1-24 に示すとおりである。

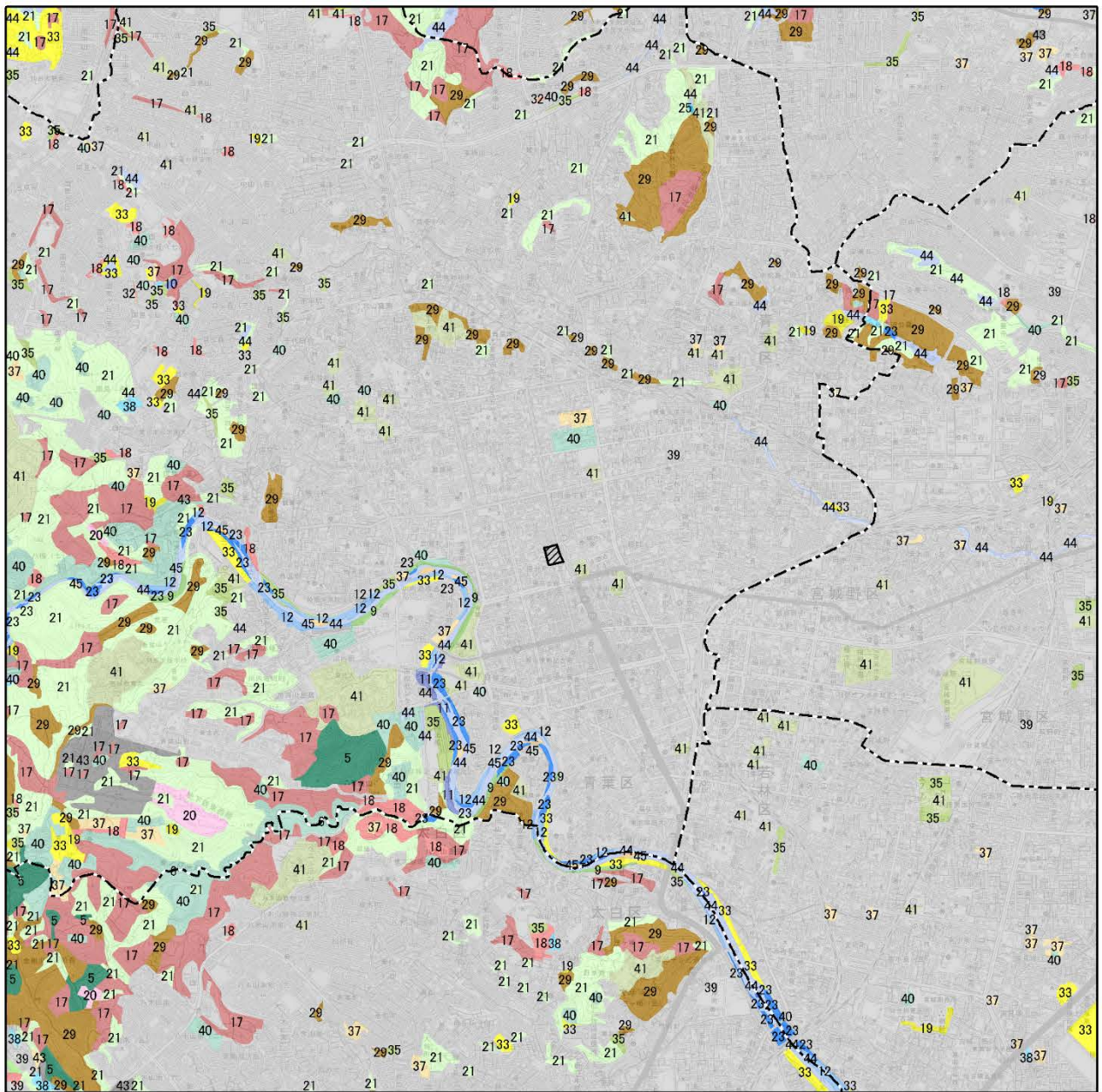
計画地の植生は市街地となっている。計画地の近傍では南東に位置する勾当台公園、錦町公園、北東側の勝山公園が、残存・植栽樹群を持った公園、墓地等が位置している。

計画地の西側の広瀬川沿いは、ハンノキ群落、ヤナギ高木群落、ヤナギ低木群落、ヨシクラス等の植生自然度 9 以上の自然性の高い溪畔林となっている。広瀬川右岸側の青葉山周辺域では、モミ-イヌブナ群集、クリ-コナラ群集、アカマツ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林等の森林が多く広がり、竜ノ口溪谷では植生自然度 10 の自然性の高いイヌシデ-アカシデ群落が分布している。(図 3.1-25)

表3.1-60 植生自然度区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツ-トドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリ-ミズナラ群落、クヌギ-コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」 (平成 28 年 3 月 仙台市)



凡例

計画地

区界

現存植生図

5. モミーイヌナ群集

6. イヌシデアカシデ群落

9. ケヤキ群落(Ⅳ)

10. ハンノキ群落(Ⅳ)

11. ヤナギ高木群落(Ⅳ)

12. ヤナギ低木群落(Ⅳ)

15. クリーミズナラ群集

17. アカマツ群落(V)

18. 落葉広葉低木群落

19. ススキ群団(V)

20. 伐採跡地群落(V)

21. クリーコナラ群集

23. ヨシクラス

25. ヒルムシロクラス

29. スギ・ヒノキ・サワラ植林

32. 竹林

33. ゴルフ場・芝地

35. 路傍・空地雑草群落

37. 畑雑草群落

38. 水田雑草群落

39. 市街地

40. 緑の多い住宅地

41. 残存・植栽樹群をもった公園、墓地

43. 造成地

44. 開放水域

45. 自然裸地

出典：

「せんだいからのマップ オープンデータ閲覧 植生図」
(仙台市 HP ダウンロード令和2年6月4日)



1:50,000

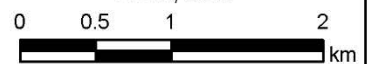
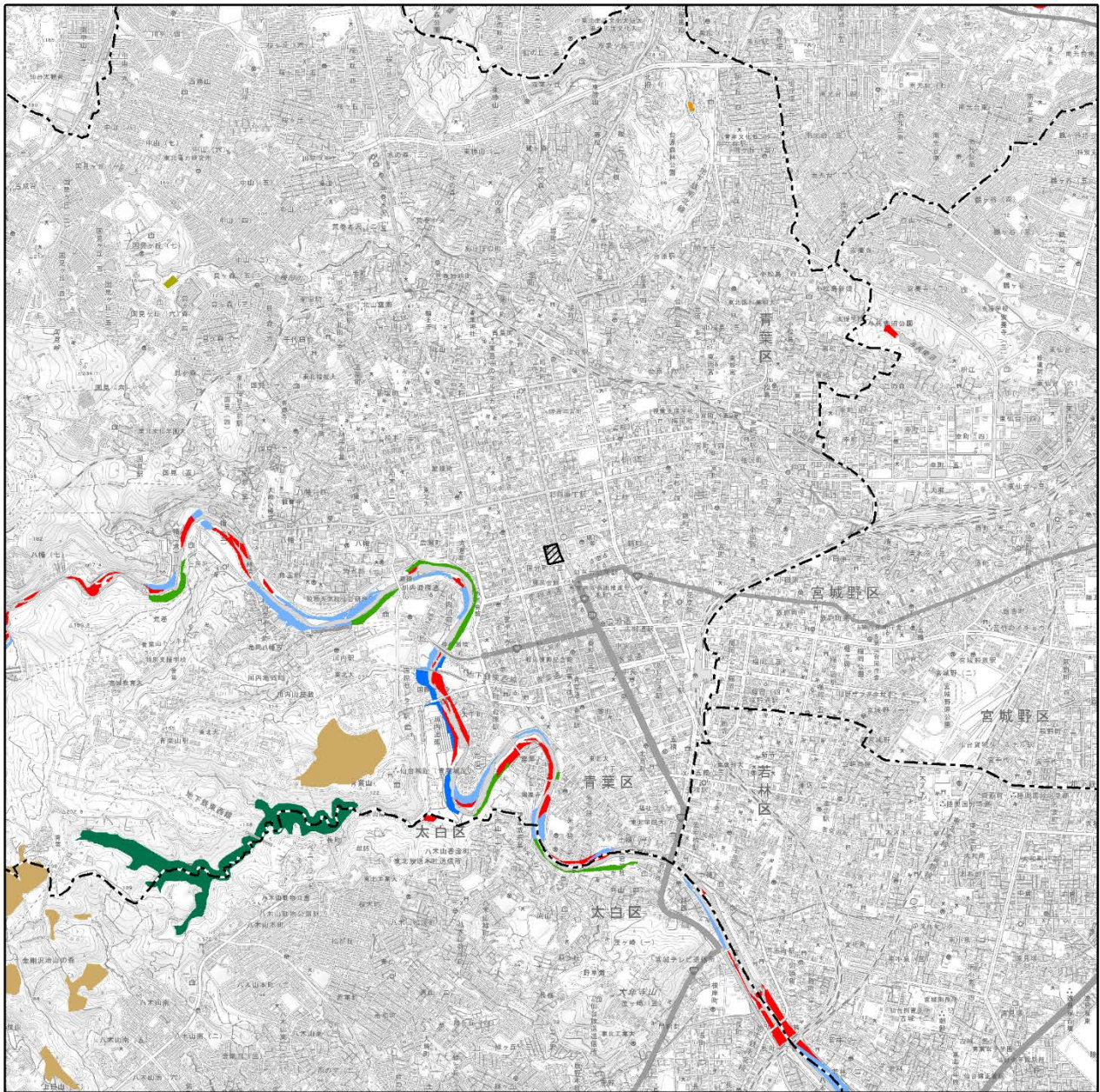


図3.1-24 現存植生図



凡例

▨ 計画地 植生自然度個別値10

┌──┐ 区界 ■ ヨシクラス

■ ヒルムシロクラス

植生自然度個別値9

■ モミーイヌブナ群集

■ イヌシデアアカシデ群落

■ ケヤキ群落(Ⅳ)

■ ハンキ群落(Ⅳ)

■ ヤナギ高木群落(Ⅳ)

■ ヤナギ低木群落(Ⅳ)

出典：「せんだいぐらしのマップ オープンデータ一覧 植生図」
(仙台市 HP ダウンロード令和2年6月4日)



1:50,000

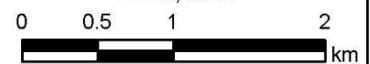


図3.1-25 自然性の高い植生

② 保全上重要な植物の生育地

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）において、表 3.1-61 に示す選定基準によって植物生育地として重要な地域が選定されている。調査範囲では、表 3.1-62 及び図 3.1-26 に示す植物生育地として重要な地域が存在している。

「宮城県のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（平成 28 年 3 月 宮城県）によれば、調査範囲には表 3.1-63 及び図 3.1-27 に示す、4 箇所の希少な植物群落が挙げられているが、計画地に係る希少な植物群落は存在しない。

表3.1-61 重要な地域の選定基準

番号	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海岸や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

表3.1-62 植物の重要な生育地

番号	名称	概要	判断理由
1	東北大学植物園のモミ林	国指定天然記念物。モミの大木を主体とした針広混交林で、原生林に近い。仙台市街地の西縁に残存し極めて貴重である。青葉城の背後を守る御裏林として保全管理されてきた。カシ類やシロダモ、カラスザンショウ、イイギリといった暖地性植物も混交し、階層ごとに多様な植物がみられる。	1, 2, 3, 6, 7, 8
2	霊屋のスギ林	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で、林床には暖地性の植物も多く、北限近くの自然林のあり方を知る上でも貴重な群落。	5, 6, 7
3	佐保山のモミ・イヌブナ林	太白山県自然環境保全地域。優勢なモミやイヌブナをはじめ多様な林木・草本が生育し、仙台地方において最も原生林に近い林相を示す森林（林分）のひとつである。また広い面積を有している点でも貴重である。	3, 5, 6, 7
4	鉤取山学術参考保護林周辺の林	太白山県自然環境保全地域。鉤取山学術参考保護林として保護されているモミ・イヌブナ林を中心に、コナラ・クリ林やアカマツ・コナラ林から構成される森林域。仙台市域の丘陵地の気候的極相林と二次植生を含み、植物群落の遷移過程がみられる。	5, 6, 7
5	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。立地や洪水様態に応じた多様な植生が認められ、ヤナギ類の群落を中心に、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場としても極めて貴重。	8, 9
6	台原森林公園・真美沢公園の里地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7, 8
7	与兵衛沼周辺の里地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7, 8
8	茂ヶ崎・愛宕神社周辺の里地・里山植生	市街地南部の段丘に残された、まとまりのある緑地。歴史的な建造物や仙台市野草園を含み、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7, 8
9	竜ノ口溪谷の自然林	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。広瀬川中流域。高さおよそ70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷で、両岸に残存する大木と独特の植物相が残る。	3
10	榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	市街地内部に残された、段丘に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7, 8
11	八幡・国見・放山地区の緑地	市街地の内部の段丘に残された、地滑りに沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7, 8
12	奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生	市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。また、青葉山は、狭い地域内に800種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されており、環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7, 8
13	丸田沢緑地（水の森公園）	丸田沢緑地環境保全地域。仙台藩の御林として伐採が禁じられた。市街地の中央に位置し、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、とび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。モミの大木を含むアカマツ自然林やコナラ等の二次林、スギ植林が比較的広い面積で残存し、貴重。	5, 6, 7
14	葛岡墓園・荒巻の緑地	権現森緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	6, 7, 8

※判断理由については表3.1-61に準拠

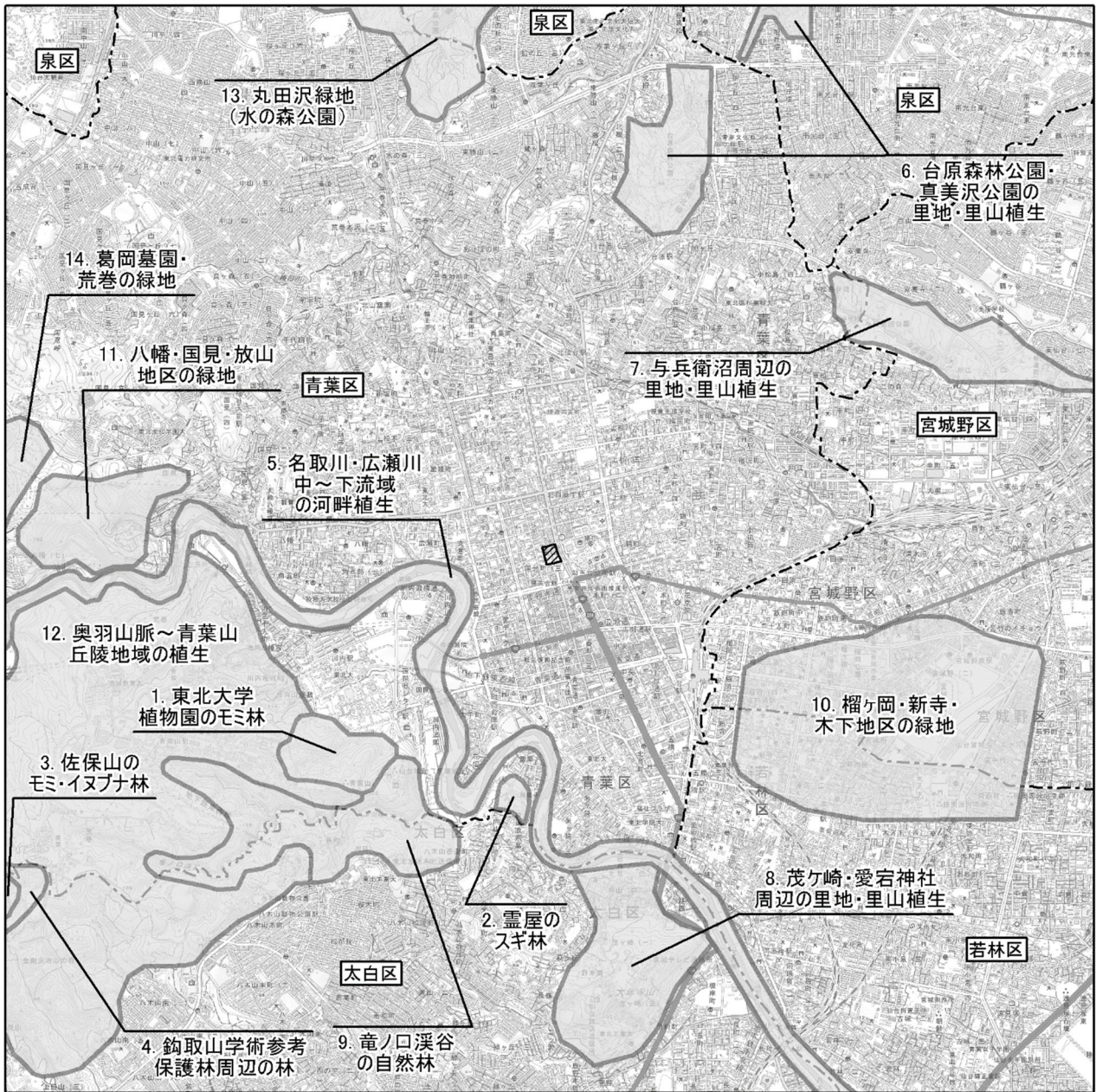
出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月 仙台市）

表3.1-63 希少な植物群落




番号	名称	面積(ha)	指定状況
1	佐保山のモミ・イヌブナ群落 ^{※1} (鈎取山モミ)	9.08	・特定植物群落 ・植物群落保護林 ・野鳥の森
2	霊屋のスギ植林	5	・特定植物群落 ・仙台市保全緑地
3	東北大学大学院理学研究科附属植物園の 植物群落	45	・特定植物群落 ・国天然記念物 ・仙台市保全緑地 ・広瀬川の清流を守る条例特別保全区域
4	丸田沢の植物群落	124	・県緑地環境保全地域

※1:「佐保山のモミ・イヌブナ群落」は、森林法に基づく植物群落保護林(鈎取山モミ)としての保護林指定を受けていたが、平成27年の保護林制度の改正により、「植物群落保護林」から「希少個体群保護林」に指定区分が変更された。

出典:「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」(平成28年3月 宮城県)



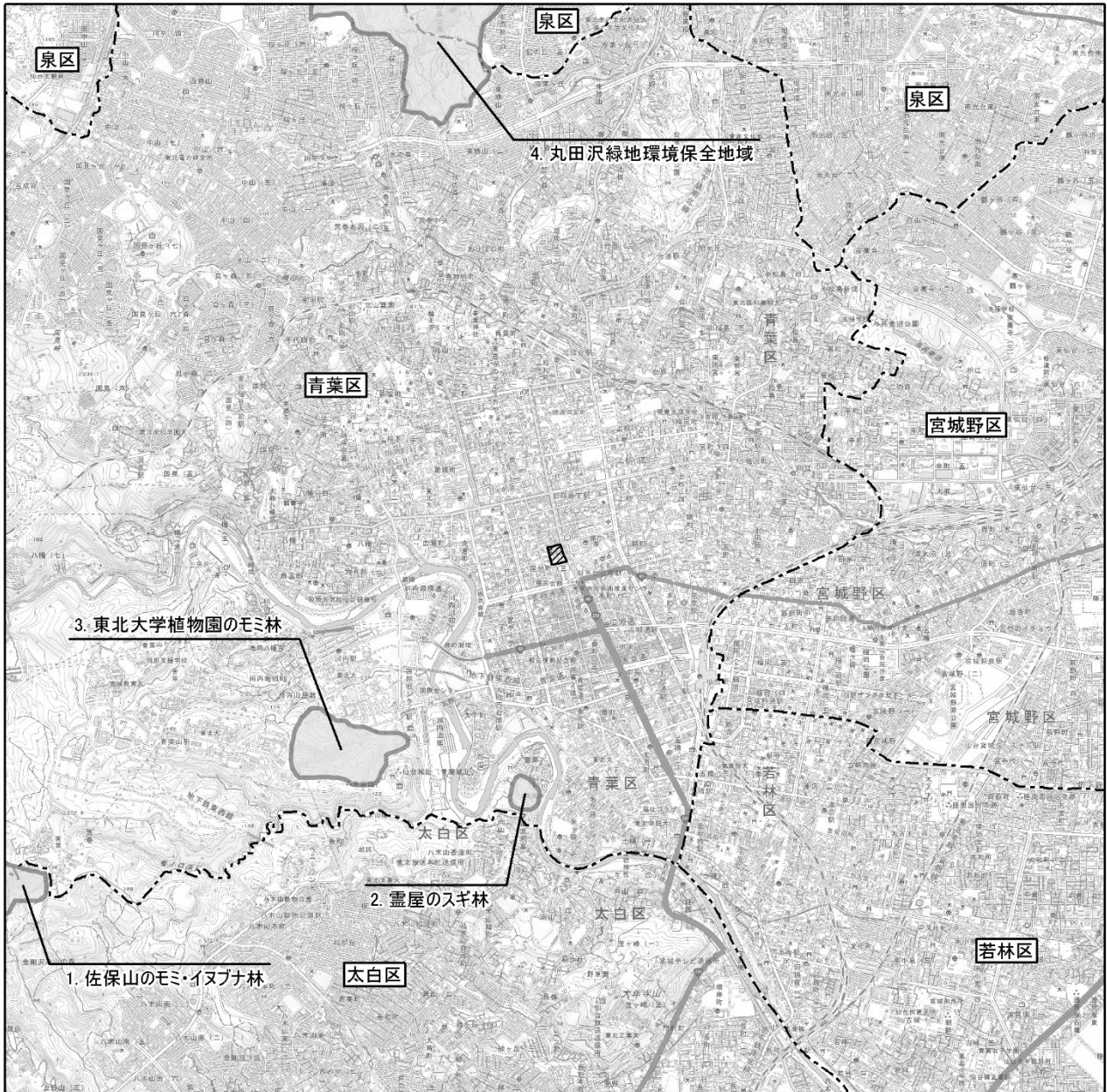
凡例

-  計画地
-  区界
-  植物の重要な生育地




出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」
 (平成 29 年 3 月 仙台市)



図3.1-26 保全上重要な植物の生育地



凡例

-  計画地
-  区界
-  希少な植物群落

出典：「RED DATA BOOK MIYAGI 2016 宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」
 (平成 28 年 3 月 宮城県)



1:50,000
 0 0.5 1 2 km

図3.1-27 希少な植物群落

(2) 動物

ア 動物相及び注目すべき種の状況

① 動物相

調査対象範囲の動物相は、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）によると、計画地の位置する市街地や田園地域において「人の生活空間の拡大や各種開発事業により、動物の良好な生息環境が減少しているが、公園や残された緑地等が、タヌキ、イタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタなど多くの動物にとって貴重な生息場所となっており、これらの緑地を保全するとともに、周囲の丘陵地、田園地域との連続性に配慮した緑の創出を進める必要がある」とされている。

② 注目すべき動物種

調査範囲内における「注目すべき動物種」について、表 3.1-56 に示す基準に基づき選定を行った。その際、計画地が「市街地地域」に位置していることから、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）において「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、「市街地地域」（表 3.1-57）における減少種を「注目すべき動物種」として抽出処理を行った。調査範囲における注目すべき動物種数は表 3.1-64、分類ごとの注目すべき動物種は表 3.1-65～表 3.1-70 に示すとおりである。

表3.1-64 注目すべき動物種数

項目	目数	科数	種数	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	地・西部丘陵田園	市街地	東部田園	海浜				
哺乳類	4	6	9	5	8	9	9	5	4	9	1	2	0
鳥類	14	29	64	44	36	57	64	53	44	40	20	24	5
両生類	2	6	11	1	11	11	11	10	11	8	4	5	0
爬虫類	1	5	8	2	5	7	8	6	3	6	0	1	0
魚類	7	10	15	7	12	14	15	15	14	8	13	10	0
昆虫類	5	18	26	19	5	20	26	15	3	11	11	17	0
計	33	74	133	78	77	118	133	104	79	82	49	59	5

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類）」（平成 29 年 3 月 仙台市）
 ※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3.1-65 注目すべき動物種【哺乳類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	モグラ目(食虫目)	トガリネズミ科	ホンシュウジネズミ	—	+	C	B	C	・	○	—	—	—
2	コウモリ目(翼手目)	キクガシラコウモリ科	ニホンキクガシラコウモリ	1	C	C	C	・	・	○	—	—	—
3		ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ	1, 4	C	C	C	・	・	○	—	—	—
4			ヤマコウモリ	1, 4	C	C	C	C	C	○	VU	VU	—
5			ヒナコウモリ	1, 4	C	C	C	・	C	○	—	VU	—
6	ネズミ目(齧歯目)	リス科	ムササビ	1, 4	・	C	C	・	・	○	—	—	—
7		ネズミ科	ハタネズミ	—	+	C	C	C	C	○	—	—	—
8			ヒメネズミ	—	+	+	+	/	・	○	—	—	—
9	ネコ目(食肉目)	イタチ科	イタチ	—	C	C	C	C	C	○	—	—	—
	4目	6科	9種	5	8	9	9	5	4	9	1	2	0

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種(哺乳類)」(平成29年3月 仙台市)

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成30年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3.1-66 (1) 注目すべき動物種【鳥類】 (1/2)

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	キジ目	キジ科	ウズラ	1, 4	—	A	A	A	A	—	VU	CR+EN	—
2	ツル目	クイナ科	クイナ	1, 4	・	C	A	B	B	—	—	YO	—
3			ヒクイナ	1, 4	・	C	B	B	B	—	NT	CR+EN	—
4			バン	1, 4	・	C	B	C	C	○	—	—	—
5	カモ目	カモ科	マガン	1, 4	・	・	A	B	B	—	NT	—	天記
6			オシドリ	1, 4	+	C	B	・	・	—	DD	—	—
7	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	—	・	C	B	C	C	○	—	—	—
8	ペリカン目	サギ科	サンカノゴイ	1	・	B	A	B	B	—	EN	NT	—
9			ヨシゴイ	1, 4	・	C	B	C	C	○	NT	NT	—
10			アマサギ	4	・	・	A	+	・	○	—	—	—
11			チュウサギ	1, 2, 4	・	C	A	C	C	—	NT	—	—
12			コサギ	—	・	C	B	+	+	○	—	—	—
13	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	1, 4	+	+	C	C	C	○	—	—	—
14			カッコウ	1, 4	C	C	B	C	C	○	—	—	—
15	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	1, 4	+	C	B	・	・	○	NT	NT	—
16	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	1, 4	C	C	B	B	・	○	—	—	—
17		シギ科	オオジシギ	1, 4	B	B	A	B	B	—	NT	NT	—
18		カモメ科	コアジサシ	1, 2, 4	・	・	A	B	B	—	VU	VU	国際
19	タカ目	タカ科	オジロワン	1, 2, 4	・	B	B	B	B	—	VU	VU	天記, 国内, 国際
20			チュウヒ	1, 4	・	C	B	C	C	○	EN	NT	—
21			ツミ	1, 4	C	C	C	C	C	—	—	DD	—
22			ハイタカ	1, 4	C	C	C	C	C	—	NT	NT	—
23			オオタカ	1, 4	C	C	B	B	C	○	NT	NT	国内
24			サシバ	1, 4	C	C	A	C	C	—	VU	VU	—
25			ノスリ	—	+	C	C	C	・	○	—	—	—

表 3.1-66 (2) 注目すべき動物種【鳥類】(2/2)

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
26	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	1	C	C	C	B	B	—	—	YO	—
27			フクロウ	1	C	C	B	B	C	○	—	—	—
28			アオバズク	1	・	C	B	B	B	○	—	VU	—
29			コミミズク	1	・	B	A	B	B	○	—	YO	—
30	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1, 4	・	C	C	C	・	○	—	—	—
31			ヤマセミ	1, 4	・	・	B	・	・	○	—	YO	—
32	キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ	—	+	C	B	C	C	—	—	—	—
33			アオゲラ	—	+	C	B	C	C	○	—	—	—
34	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	1, 4	・	C	B	C	B	—	—	—	—
35			チゴハヤブサ	—	・	・	B	B	・	—	—	YO	—
36			ハヤブサ	1, 4	C	B	B	B	B	—	VU	NT	国内, 国際
37	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	—	C	C	B	C	C	—	VU	VU	—
38		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	1	・	C	B	・	・	○	—	—	—
39		モズ科	チゴモズ	1, 4	・	B	B	B	・	—	CR	CR+EN	—
40			モズ	1	+	C	B	C	C	○	—	—	—
41			アカモズ	1, 4	・	B	B	B	B	—	EN	CR+EN	—
42		ヒバリ科	ヒバリ	—	・	C	B	C	C	○	—	—	—
43		ツバメ科	ツバメ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—
44		ウグイス科	ウグイス	1, 4	+	+	C	C	C	○	—	—	—
45		ムシクイ科	センダイムシクイ	—	+	C	B	・	・	○	—	—	—
46		ヨシキリ科	オオヨシキリ	1, 4	・	C	B	C	C	○	—	—	—
47			コヨシキリ	1, 4	・	C	A	C	C	○	—	—	—
48		セッカ科	セッカ	1, 4	・	C	B	C	C	○	—	—	—
49		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	—	+	・	B	・	・	○	—	—	—
50		カワガラス科	カワガラス	—	+	C	B	・	・	○	—	—	—
51		ヒタキ科	トラツグミ	—	+	C	B	C	C	○	—	—	—
52			クロツグミ	1, 4	+	C	B	C	C	○	—	—	—
53	シロハラ		—	+	C	B	・	・	○	—	—	—	
54	コルリ		1, 4	+	C	B	C	C	○	—	—	—	
55	ルリビタキ		—	+	C	C	C	C	—	—	—	—	
56	コサメビタキ		—	・	・	B	・	・	○	—	—	—	
57	キビタキ		—	+	C	B	・	・	○	—	—	—	
58	オオルリ		1, 4	+	C	C	C	C	○	—	—	—	
59	セキレイ科	キセキレイ	1, 4	+	C	C	C	・	○	—	—	—	
60		セグロセキレイ	4	C	C	C	C	・	—	—	—	—	
61	ホオジロ科	ホオジロ	—	+	+	B	C	C	○	—	—	—	
62		ホオアカ	—	B	C	A	C	B	○	—	—	—	
63		ノジコ	1, 4	C	C	B	・	・	—	NT	YO	—	
64		アオジ	—	C	C	C	C	C	○	—	—	—	
	14 目	29 科	64 種	44	36	57	64	53	44	40	20	24	5

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（鳥類）」（平成 29 年 3 月 仙台市）

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3.1-67 注目すべき動物種【両生類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等				
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存	
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
1	有尾目	サンショウウオ科	トウホクサンショウウオ	4	+	C	B	/	/	○	NT	NT	-	
2			クロサンショウウオ	-	+	C	A	/	/	○	NT	LP	-	
3		イモリ科	アカハライモリ	-	+	C	A	C	/	○	NT	LP	-	
4	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	-	+	C	B	C	/	-	-	-	-	
5		アマガエル科	ニホンアマガエル	-	+	+	+	+	+	○	-	-	-	
6		アカガエル科	タゴガエル	-	+	C	A	/	/	-	-	-	-	
7			ニホンアカガエル	-	+	+	A	C	/	-	-	-	-	
8			トウキョウダルマガエル	-	C	C	A	C	/	○	NT	NT	-	
9			ツチガエル	-	+	C	A	・	/	○	-	NT	-	
10		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	-	+	+	B	C	/	○	-	-	-	
11			カジカガエル	-	+	+	B	C	/	○	-	-	-	
		2目	6科	11種	1	11	11	11	10	11	8	4	5	0

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（両生類）」（平成29年3月 仙台市）

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成30年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3.1-68 注目すべき動物種【爬虫類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ	1	・	C	A	・	・	○	-	-	-
2		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	-	+	+	C	C	・	○	-	-	-
3		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	1	・	・	A	・	・	-	-	DD	-
4		ナミヘビ科	アオダイショウ	-	+	+	B	C	C	○	-	-	-
5			ジムグリ	-	+	+	B	C	C	○	-	-	-
6			ヒバカリ	-	C	C	C	C	B	○	-	-	-
7			ヤマカガシ	-	・	+	A	C	・	○	-	-	-
8		クサリヘビ科	ニホンマムシ	-	C	C	A	C	・	-	-	-	-
	1目	5科	8種	2	5	7	8	6	3	6	0	1	0

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（爬虫類）」（平成29年3月 仙台市）

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成30年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3.1-69 注目すべき動物種【魚類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類	1	C	B	C	C	/	—	VU	NT	—
2	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	1	・	B	B	C	C	○	EN	NT	—
3	コイ目	コイ科	キンブナ	—	+	+	C	C	・	—	VU	NT※	—
4			タナゴ	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—
5			アカヒレタビラ	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—
6			ゼニタナゴ	—	EW	EW	EW	EW	EW	—	CR	CR+EN	—
7			ウグイ	—	+	+	+	+	+	○	—	—	—
8			フクドジョウ科	ホトケドジョウ	1	+	+	C	C	/	○	EN	NT
9	ナマズ目	ギギ科	ギバチ	1	・	+	+	C	/	—	VU	NT	—
10	サケ目	アユ科	アユ	—	/	+	+	+	C	○	—	—	—
11		サケ科	サクラマス	1	+	・	C	C	C	○	NT	NT	—
12			サクラマス(ヤマメ)	—	+	+	+	+	/	○	NT	—	—
13	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	1	・	A	A	C	C	○	VU	NT	—
14	スズキ目	カジカ科	カジカ	—	+	+	B	/	/	○	NT	—	—
15		ハゼ科	スミウギゴリ	1	/	/	+	+	+	—	LP	—	—
	7 目	10 科	15 種	7	12	14	15	15	14	8	13	10	0

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（魚類）」（平成 29 年 3 月 仙台市）

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3.1-70 注目すべき動物種【昆虫類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存	
					山地	西田園丘陵地	市街地	東部田園	海浜					
1	トンボ目 (蜻蛉目)	イトトンボ科	ヒヌマイトトンボ	1, 2	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—	
2		サナエトンボ科	ウチワヤンマ	1	・	C	B	C	・	—	—	—	—	
3			ナゴヤサナエ	1, 2	・	・	C	・	・	—	VU	CR+EN	—	
4		トンボ科	ハッチョウトンボ	1	・	B	A	・	・	○	—	VU	—	
5			キトンボ	1	・	A	A	・	・	—	—	VU	—	
6			ヒメアカネ	1	・	B	A	・	・	—	—	CR+EN	—	
7	バッタ目 (直翅目)	マツムシ科	スズムシ	1	・	B	A	B	・	—	—	—	—	
8		バッタ科	カワラバッタ	1	・	・	B	B	・	○	—	NT	—	
9	カメムシ目 (半翅目)	セミ科	エゾゼミ	—	・	+	B	・	・	○	—	—	—	
10		コオイムシ科	コオイムシ	1	・	B	A	A	・	—	NT	NT	—	
11			タガメ	1	・	B	A	A	・	○	VU	CR+EN	—	
12	チョウ目 (鱗翅目)	シジミチョウ科	クロシジミ	1	・	A	A	・	・	—	EN	CR+EN	—	
13		タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	CR	EX	—	
14			ジャノメチョウ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—	
15			オオムラサキ	1	・	C	B	B	・	○	NT	—	—	
16		アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	4	・	・	+	+	・	○	—	—	—	
17			ヒメギフチョウ本州亜種	1	C	B	B	・	・	○	NT	NT	—	
18		シロチョウ科	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—	
19		ドクガ科	フタホシドクガ	1	・	・	C	・	・	—	—	NT	—	
20		ヤガ科	コシロシタバ	1	A	・	A	・	・	—	NT	VU	—	
21		コウチュウ目 (鞘翅目)	ハンミョウ科	ハンミョウ	—	・	B	B	・	・	—	—	—	—
22	ゲンゴロウ科		ゲンゴロウ	1	・	・	B	B	・	—	VU	NT	—	
23	クワガタムシ科		ミヤマクワガタ	—	・	C	B	・	・	○	—	—	—	
24			ノコギリクワガタ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—	
25	タマムシ科		ヤマトタマムシ	1, 2	・	B	A	A	・	—	—	NT	—	
26	ホタル科		ゲンジボタル	1	・	C	B	C	・	○	—	NT	—	
5目				18科	26種	19	5	20	26	15	3	11	17	0

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種 (昆虫類)」(平成 29 年 3 月 仙台市)

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

③ ふるさと種（動物）

仙台市に生息・生育する動物種のうち、仙台のふるさとの自然を代表する種や、市民に親しんで欲しい種として「ふるさと種」が選定されている。動物のふるさと種は表 3.1-71 に示すとおりである。

表 3.1-71 ふるさと種【動物】

No	分類群	目名	科名	和名
1	哺乳類	モグラ	モグラ	アズマモグラ
2		ウサギ	ウサギ	ノウサギ
3		ネズミ	リス	ニホンリス
4		ネコ	イヌ	タヌキ
5		ウシ	ウシ	カモシカ
6	鳥類	カモ	カモ	カルガモ
7		カッコウ	カッコウ	カッコウ
8		フクロウ	フクロウ	フクロウ (※1)
9				アオバズク (※1)
10		ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ
11		スズメ	ウグイス	ウグイス
12	爬虫類	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ
13			ナミヘビ	シマヘビ
14	両生類	有尾	イモリ	アカハライモリ
15		無尾	アカガエル	トウキョウダルマガエル
16			アオガエル	カジカガエル
17	魚類	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ (※2)
18		コイ	ドジョウ	ドジョウ
19		サケ	アユ	アユ
20			サケ	サケ
21		ダツ	メダカ	ミナミメダカ
22		カサゴ	カジカ	カジカ
23		昆虫類	トンボ	トンボ
24	アキアカネ (※3)			
25	バッタ		マツムシ	スズムシ
26			イナゴ	コバネイナゴ (※4)
27				ハネナガイナゴ (※4)
28	チョウ		アゲハチョウ	アオスジアゲハ
29	コウチュウ		クワガタムシ	ミヤマクワガタ

※1：「ふるさと種」では「フクロウの仲間」として選定されている。

※2：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」本編にはニホンウナギはふるさと種として記載されていないが、同報告書資料編の目録にふるさと種として選定されているため、表に含めた。

※3：「ふるさと種」では「アカネの仲間」として選定されている。

※4：「ふるさと種」では「イナゴの仲間」として選定されている。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

イ 動物生息地として重要な地域

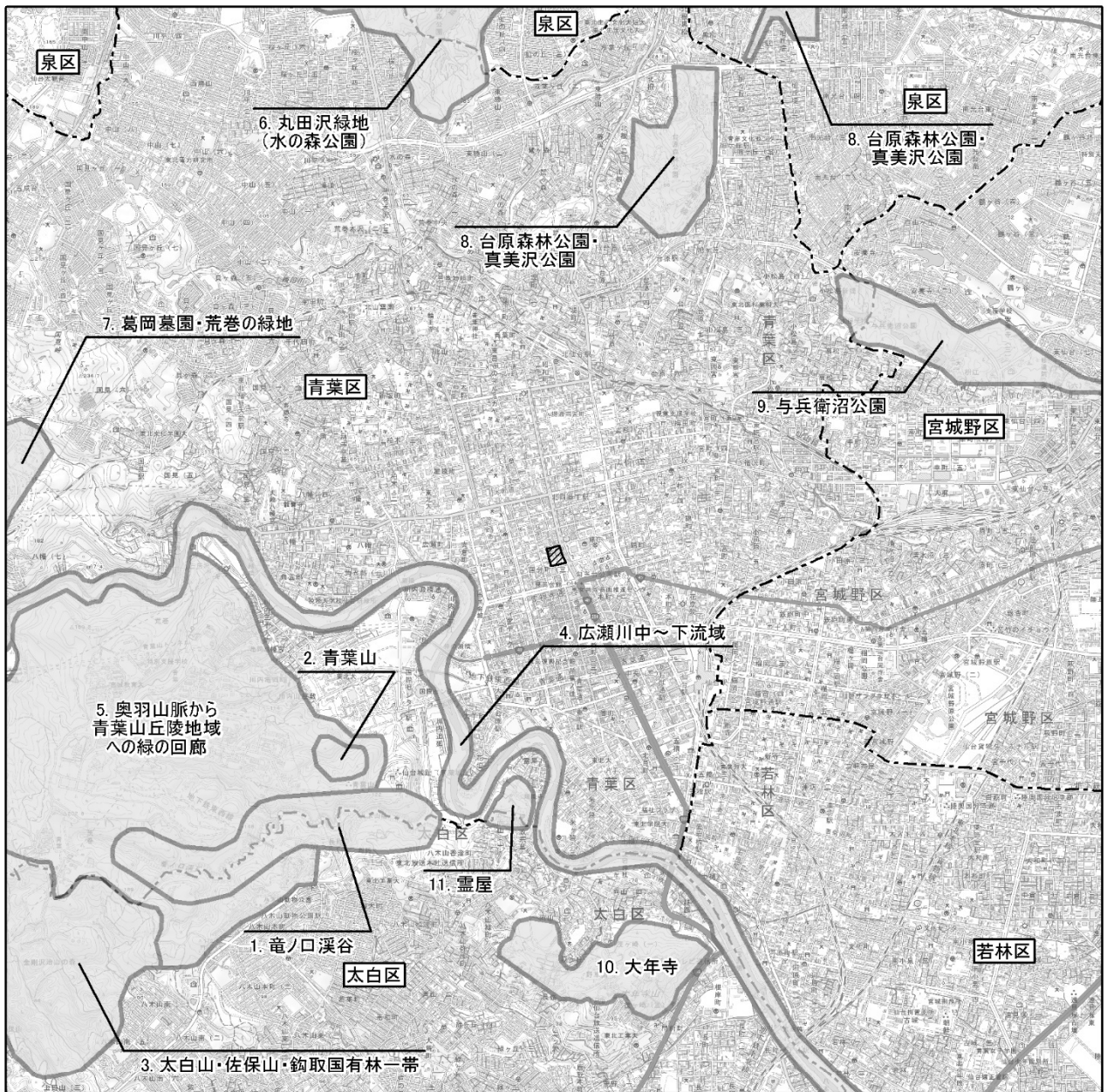
「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）において、動物生息地として重要な地域について、表 3. 1-56 に示す選定基準に基づいた選定が行われている。調査範囲内における動物生息地として重要な地域は、表 3. 1-72 及び図 3. 1-28 に示すとおりであり、計画地に係る重要な生息地はない。

表3. 1-72 動物の重要な生息地




No	名称	対象	概要	判断理由
1	竜ノ口溪谷	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタットとして重要。高さおよそ 70m に及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷。ハヤブサの繁殖。	4
2	青葉山	鳥類	仙台市街地の西縁に位置する緑地で、森林性鳥類が豊富。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。豊かな里地里山生態系のシンボルであるオオタカも生息し、毎年繁殖の成功が確認されている。環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	1, 2, 5, 6, 7
3	太白山・佐保山・鉤取国有林一帯	鳥類	太白山県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。山から里までの鳥類が豊富。	2, 5, 6, 7
4	広瀬川（中～下流域）	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。	2, 7, 8
5	奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊	動物全般	市街地の南部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
6	丸田沢緑地（水の森公園）	動物全般	丸田沢緑地環境保全地域。市街地の中央に位置し、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	6, 7
7	葛岡墓園・荒巻の緑地	動物全般	権現森緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊（生態系コリドー）として重要である。	6, 7
8	台原森林公園・真美沢公園	動物全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6, 7, 8
9	与兵衛沼公園	動物全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6, 7
10	大年寺	動物全般	大年寺風致地区。市街地の南部の段丘に残された、まとまりのある緑地であり、野生動植物のハビタットとして重要である。	1, 6, 7
11	霊屋	哺乳類	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で、野生動植物のハビタットとして重要。	5, 6, 7

※判断理由については表 3. 1-56 に準拠

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）



凡例

-  計画地
-  区界
-  動物の重要な生息地

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」
 (平成 29 年 3 月 仙台市)

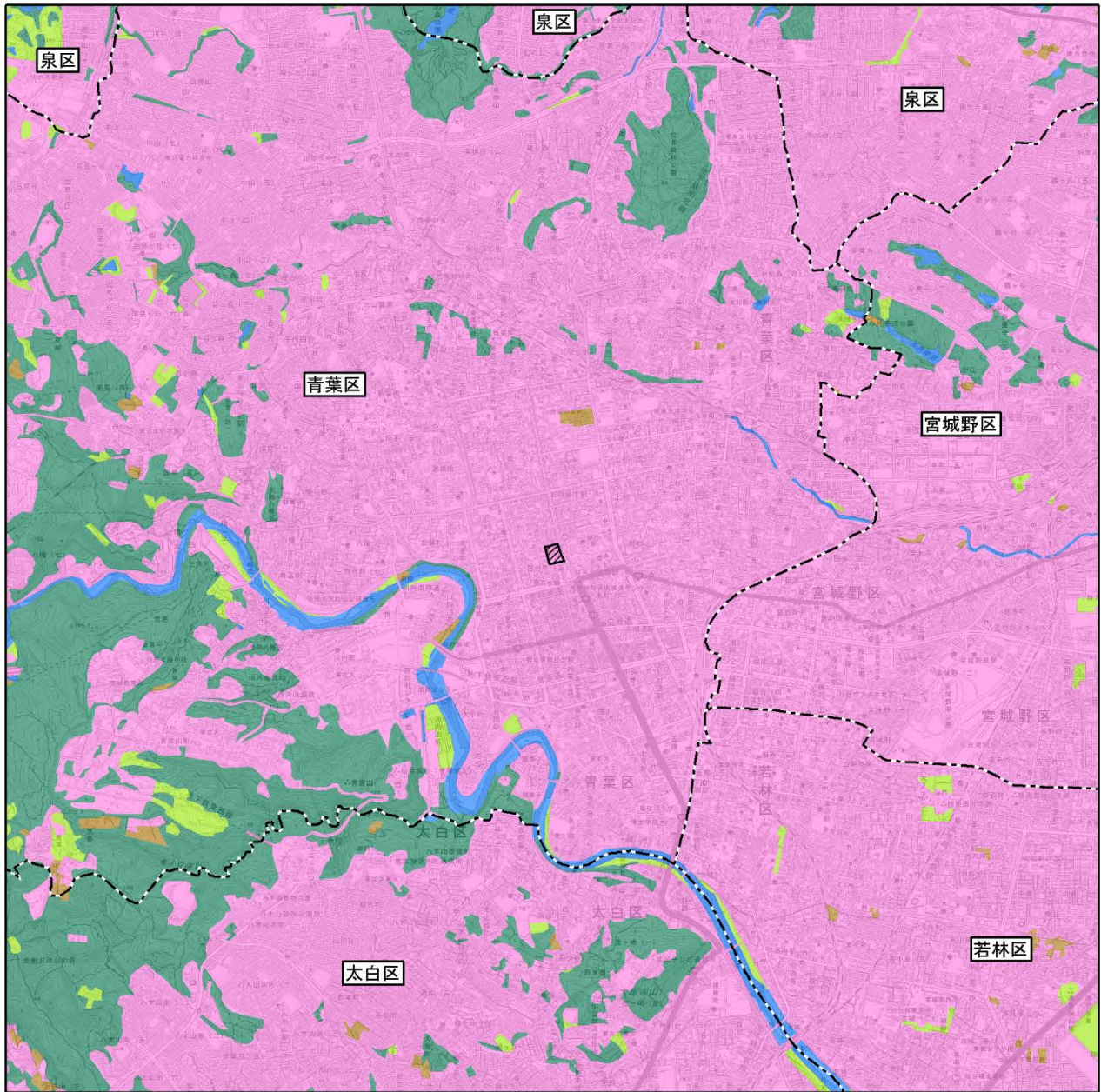


図3.1-28 動物生息地として重要な地域

(3) 生態系

ア 計画地周辺の生態系の特性

計画地及びその周辺における自然環境の類型区分は、植生区分をもとに環境特性ごとに区分すると「森林」「草地」「河辺・溪畔」「農地」、「市街地」に大別され、その分布状況は図 3.1-29 に示すとおりとなっている。計画地周辺では、計画地南西側の広瀬川における「河辺・溪畔」環境を基盤とした生態系、計画地南西側の青葉山丘陵から奥羽山脈に連なる「森林」環境における生態系、計画地北部の七北田丘陵における丸田沢緑地・台原森林公園・与兵衛沼公園等の緑地帯における「森林」生態系が形成されているものと考えられる。計画地は市街地の中心部となっており、生物の主要な生息・生育環境ではない。



凡例

計画地

区界

自然環境の類型区分

市街地

森林

河辺・溪畔

草地

農地

出典：

「せんだいぐらしのマップ オープンデータ一覧 植生図」

(仙台市 HP ダウンロード令和2年6月4日) を元データとして類型区分

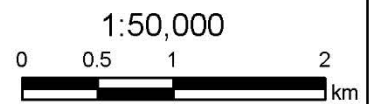


図3.1-29 自然環境の類型区分